

特別支援教育だより

ほほ笑み便り

NO. 3

平成28年 9月30日
杉並区立八成小学校
校内委員会

いよいよ2学期が始まりました。暑い夏休みでしたが、ゆっくりと休みリフレッシュできましたでしょうか。今回のほほ笑み便りでは「ビジョントレーニング」と、「話の視覚化」についてお知らせします。

ビジョントレーニング

こんなことに悩んでいるお子さんはいらっしゃいませんか？



学校やご家庭でよくある悩みだと思います。ひょっとしたら、それは視覚機能に課題がある可能性があります。「え？ 視力はいいのに？」と思われるかもしれません。実は、視力と視覚機能はまったく別なのです。悩んでいたら、視力検査だけではなく、一度『視覚機能検査』を受けることをおすすめします。下記のいずれかにご相談ください。

特別支援教育コーディネーター 1-3 担任 池田 03-3399-3138 (学校代表)

特別支援教育コーディネーター はちなり学級担任 杉村 03-3399-3181 (はちなり学級直通)

スクールカウンセラー 浦山 03-3399-3160 (火曜のみ)

視覚機能とは、おもに3つのプロセスに分けられます。ボールを取る動きに例えると、

- ①ボールにピントを合わせる『入力機能』
 - ②大きさや距離、速さを認識する『情報処理機能』
 - ③身体を動かしてボールを取りに行く『出力機能』
- があります。

①は、さらに『動いている物を目で追う機能』『ある1点から別の1点に視線をジャンプさせる機能』『寄り目や離し目をして焦点を合わせる機能』に分けられます。ここが苦手だと、読み飛ばしや板書写しの苦手さ、物にぶつかるなどの困難さにつながります。

②は、『目に入った情報から、ほしい視覚情報だけを集める機能』『形や色を把握する機能』『大きさや色や位置の違いに関わらず、仲間を見分ける機能』『自分との距離や大きさ、上下左右など空間的な位置を把握する機能』に分けられます。ここが苦手だと、物を探すことや、絵をかくこと、人の顔を覚えること、人や物にぶつからずに歩くことなどの困難さにつながります。

③は、『眼で見て、脳で認識された情報をもとに身体を動かす機能』です。ここが苦手だと、文字を書くことや、まねをして動くこと、手先を器用に動かすことの困難さにつながります。

以上のように、眼にはいろいろな機能があり、どこか一つでも適切に機能していないと、様々な困難さを生みだしてしまいます。しかし、これらの機能は練習をすることで改善していきます。それが表題の「ビジョントレーニング」というものです。

最近は、ご家庭でも簡単にできるようなビジョントレーニングに関する書籍が数多く出版されています。また、ドリルでも練習できます。参考文献も挙げますので、どうぞお読みになってください。

参考文献

北出勝也 発達の気になる子のビジョントレーニング ナツメ社 2015

北出勝也 発達障害の子のビジョントレーニング 講談社 2011

木村順 「小学校で困ること」を減らす親子遊び 10 小学館 2014

視覚発達支援ドリルシリーズ 株式会社スプリングス

話す時にも「視覚化」を

こんな場面はないでしょうか？

友だちとトラブルになった、何か良くないことをしてしまったなどの場合には、子どもから事情を聞き出したり、説得したり、今後どうしたらよいか正しい方法を説明したりすることがあるでしょう。

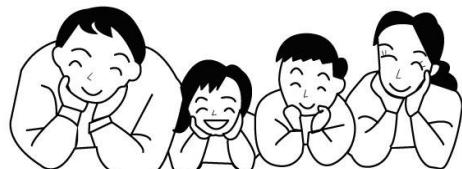
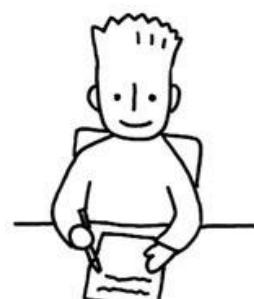
ここでよく見かける光景が、大人が一生懸命子どもに言い聞かせ、お説教して話し続けること。（しかも長時間・・・。思いがあるだけに、そのお気持ちはよく分かります。）

でも、耳からいくら言葉だけ入れられても、聞いているほうはだんだん何がどうなのか、分からなくなってしまうものです。特に子どものうちはなおさら、混乱してしまうかもしれません。そしてしまいには、話が右の耳から左の耳に。話しているほうは再び怒りが・・・。

ここで有効なのが、話の『視覚化』です。

①子どもが話したこと、大事なこと、伝えたいこと、
キーワードになるものを紙などに書きながら
(メモでOK) 話をすすめる。

②物事の因果関係や話の流れを図に示しながら
話をすすめるなどです。



こうすることで、目に見えないことが視覚化されて分かやすくなります。紙という媒介が入ることで、感情の衝突を和らげる効果もあるのです。